

2014年10月19日 主日礼拝

説教「モーセ誕生」

出エジプト記2章1-10節

【モーセの物語】

モーセは、主の前に立つ信仰者の模範のような人物です。彼は、イスラエルの人々のために大いに苦しみました。主イエスのように苦しんだともいえます。そのために、水の中から、引き出されたモーセ。今日から、アドベント（クリスマスを待つ季節）までの6回にわたって、モーセの生涯をたどることにしましょう。

【アブラハム・イサク・ヤコブ、
そしてヨセフの物語】

イスラエルのエジプトでの苦しみの発端は、ヨセフの時代に遡ります。神さまにイスラエルのリーダーとして選ばれながら、兄たちによって売られてしまったヨセフ。けれども神さまは介入なさって、ヨセフを通してエジプトとイスラエルと全世界を救われました。実は、そのころのエジプトの支配者は、エジプト人ではありませんでした。ヒクソスというなぞの民族が、エジプトを征服していたのです。だからヨセフを総理大臣にするようなことがあり得たのです。

けれども、やがてエジプト人が支配をとりもどしました。すると彼らは、異邦人であるイスラエルに支配されることを恐れて、人口

を減らすことを始めました。エジプト人にとっては生き延びることを賭けた必死の行いだったのです。こうして、またしても神さまの計画は危機にさらされます。アブラハムの子孫を通して世界を祝福する計画なのに、アブラハムの子孫が絶やされようとしているのです。けれども、ここでも神さまはあわてることがありません。

【水の中から引き出されたモーセ】

神さまはモーセを選び、守り抜かれます。モーセの母親に、いのちの危険をおかしても、3ヶ月の間モーセを守らせました。そして一家がモーセを隠しきれなくなったとき、パロの娘にあわれみのこころを起こさせ、モーセをひきとらせました。こうしてエジプト中で、ただひとつの安全な場所で、モーセは育てられたのです。

しかも、大きくなるまでは、実の母を乳母として、ふんだんに愛情を注がれて育ちました。費用は王女持ちですから、栄養もじゅうぶんに与えられたでしょう。モーセを通して、イスラエルを、そして、世界を祝福しようとする神さまのご計画。パロのしたことはこの計画を危険にさらすものでしたが、神さまはお困りになりません。だれも神さまのあわれみを止めることはできないのです。どんな障害をも乗り越えて神さまは、そのあわれみを貫かれるのですから。

神のあわれみによって水の中から、引き出されたモーセ。けれども、モーセはこの後、こんなことなら、引き出されなかった方がよかつた、ひょっとしたら思ったかもしれないほどの苦しみを経験することになります。イスラエルは、何度もモーセに逆らい続けるのです。けれども、モーセは、彼らを愛し続けます。覆って、とりなし続けるのです。まるで、主イエスが弟子たちにお仕えになったように、愛し抜いて行くのです。

【喜びも悲しみも】

私たちがみな、世の光として、それぞれが遣わされた場所を守っています。逃げることも、隠れることもなく、私たちの持ち場を守るのです。モーセの苦しみに比べれば、たいしたことはないかもしれませんが、ましてや主イエスのお苦しみには、まったく及ばないでしょう。でも、小さな私たちにとっては、ときには耐えがたい困難もあります。

けれども、良い知らせがあります。実際に持ち場を守ってくださるのは、主イエスです。私たちのすることは、そこにとどまることだけなのです。しかも、主イエスとふたりだけというわけではありません。兄弟姉妹とともに、励まし合い、覆い合いながら、持ち場にとどまり、幾年月もの歳月を重ねていきます。そこには、そうでなければ味わうことが出来ない喜びもまた、あるのです。